

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

このまちに生き、共に輝く子
○課題解決に向け、粘り強く取り組む子を育てます(知)
○自分も相手も大切に思いやりのある子を育てます(徳)
○心身共に健康で、あらゆる命を大切に育てます(体)
○人のために役立つ行動をし、地域に愛着をもつ子を育てます(公)
○コミュニケーションの力を伸ばし社会への視野を広げ実践できる子を育てます(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

- 自ら課題解決に向けて粘り強く取り組む力
○ 自他の違いを認め、思いやる態度
○ 自身の役割を果たし、貢献しようとする力

具体化した資質・能力

- ・自分の思いや考えを表現する力
・互いに認め合う力
・自分の学びを自覚して、次につなげる力

中期取組目標

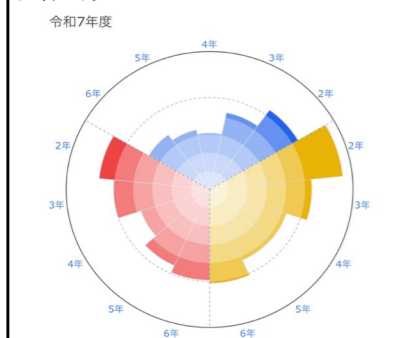
特別支援教育の視点を大切にし、すべての子どもが安心して学べる学校をつくります。
・すべての子どもが安心して表現できる学級風土を育てます。
・一人ひとりの特性に応じた支援をし、児童が互いに話を聞き合ったり、自分の思いを伝えたりする力を培い、安心して学べる授業授業づくりを目指します。
・より多くの職員で子どもに関わり、それぞれの子ども様子を共有します。
・幼稚園や保育園、中学校との連携を深め、一人ひとりに応じた育ちと学びを支援します。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善) and 具体的取組 (単元や本時で目指す子どもの姿を明確にした上で日々の授業づくりを行う。)

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童の実態
今年度の結果を見ると、生活意識や学習意識は、市の平均を大きく超えたり、平均程度の学年があったりして、規範意識をもって意欲的に取り組んでいる児童が比較的多くいることがわかる。また、学力の値は市の平均を下回ってはいるが、昨年度と同程度、または伸びが見られた。個別に見ると昨年度から学力を伸ばした児童が多く、全体的な学力は向上傾向にあると言える。



(2)これまでの学校の取組状況
・昨年度までの校内授業研では、「自分の思いや考えを表現できる子の育成」をテーマに「国語を研究し、互いに認め合い安心して学習できる授業をめぐって授業研究に取り組んできた。
・振り返りにタブレット端末を活用し、書くことや話すことに苦手意識をもった児童も思いや考えを表現することができるようにしている。
・算数TT支援(1~6年)

今年度の目標

自分の思いや考えを表現できる子の育成
～子どもたちが「できた!」を実感できる授業を目指して～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
・年度初めに算数の授業づくり研修を行い、授業づくりの工夫を学び、授業力向上を目指す。
・算数を重点研究の教科とし、校内重点研究を行う中で、子どもへの学習支援や、「できた」を実感できる授業や振り返りの工夫について考え、学び、授業力向上を目指す。
・朝学習や授業の最初の時間を活用し、基礎基本を定着させるための問題練習に取り組み、基礎学力の向上を図る。
・学んだことを児童自身が実感できるように、授業の終わりに積極的に振り返りの時間を取り入れて行く。

下半期
・前期から引き続き、講師を招いての授業研究会を重ね、算数の学習を中心として自分の思いや考えを表現できる子の育成を目指していく。
・朝学習や授業の最初の時間を活用し、基礎基本を定着させるための問題練習に取り組み、基礎学力の向上を図る。
・学んだことを児童自身が実感できるように、授業の終わりに積極的に振り返りの時間を取り入れて行く。
・授業研究会で学んだことを、他教科の授業や次年度にいかしていく。
・1年の研究成果をまとめるとともに、教師の学びを共有し、目標に迫る手立てとする。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (なかよし班活動) and 具体的取組 (異学年交流を通して思いやりのある子を育成するために、高学年が中心となって「なかよし班遊び」を実施する。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
・本校の児童の多くは、無邪気で明るく元気に生活している。その反面、道徳的価値は知っているが、実践できない面や集団の雰囲気にならざるまま過ごすこともある。
・令和7年度児童アンケートでは、「自分には、『よいところ』や『かがやくところ』があると思いますか。」という質問に対して、「そう思う」と答えた児童が半数以下であった。このことから、自己肯定感が低い児童が少なくないことが分かる。
・道徳の授業をはじめ、他教科領域でも思いや考えを交流する姿や認め合う姿が見られる。
(2)これまでの学校の取組状況
・児童一人ひとりが「みんなが好き 自分が好き」という気持ちをもつことができるようになり活動として「なかよし班遊び」を実施した。
・人間関係の基本を身に付けられるように、学年に応じた挨拶指導を行った。
・人権に関する学習に全校で取り組み、「いじめ」について考え、自分たちの行動を振り返る活動を行った。

今年度の目標

元気なあいさつだれにでも えがおいっぱい四季の森

目標を実現するための具体的行動プラン

・集会委員会が主体となって異学年の友達について「知る・関わる」ことができるように、全校集会を企画・運営する。
・6年生が中心となって、異学年の友達のことを知るができるように、なかよし班活動顔合わせで自己紹介ゲームを行う。また、年間を通して、異学年の友達と関わりながら楽しく活動できるように、なかよし班活動を継続的に行う。

上半期
・各教科の授業で語り合う「スマイルタイム」を大切に、自分の思いや考えを伝え合う力を育てる。
・児童が新入生をあたたく迎え、新入生が安心して学校生活を過ごせるように「1年生を迎える会」を行う。

下半期
・集会委員会が主体となって異学年の友達について「知る・関わる」ことができるように、全校集会を企画・運営する。
・児童が読書活動を通してお互いのことを知ったり、自分自身のよさに気付いたりすることができるように、図書委員会が提案する「読書月間のイベント」に全校で取り組む。
・児童が「命を大切にし、みんなと仲良くしよう」という思いがもてるよう、人権学習に全校で取り組む。
・児童が給食に対して関心をもち、友達と協力したり、給食に関わる方に感謝の気持ちをもつことができるように、すこやか委員会が提案する「給食週間に関するイベント」に全校で取り組む。
・児童が運動を通して、友達と協力したり思いやりをもつことができるように、運動委員会が提案する「全校なわとび集会」に全校で取り組む。
・異学年の友達のよさを認め合ったり、感謝の気持ちをもつたりしながら楽しく活動できるように、なかよし委員会の提案するお別れ集会を行う。
・児童が「卒業生」に対して感謝の気持ちを伝えることができるように、スマイル委員会が提案する「卒業生を送る会」を行う。
・各教科の授業で振り返り「キラキラタイム」を大切に、自分の学びを自覚し次につなげられるようにする。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育) and 具体的取組 (外遊びをする児童を増やすために、なかよし班活動や委員会での活動で、みんなが体を動かすことの楽しさが実感できるような取組を、計画して実施する。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
【体力テストで全国・市平均と比べた結果】
・実技は多くの種目で平均を下回っており、全学年が平均を下回っている。中でも反復横跳び、長座体前屈に関しては市平均に比べると半分以下となっている学年もある。

・生活についてのアンケート結果から、朝ごはんを毎日食べている児童の割合が、市平均と比べて低くなっている。規則正しい生活習慣についての指導とともに家庭との連携が必要だと考えられる。

(2)これまでの学校の取組状況
・保健集会や学校保健委員会を通して、体力や生活習慣等の現状と健康な心や体づくりの推進について発信してきた。
・外遊びを推進するために、縄跳び集会を実施してきた。
・栄養職員と担任が連携し、給食指導を中心とした食育を推進し、完食率の向上を目指してきた。

今年度の目標

めざせ！四季の森小のウルトラスーパー元気さん！

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
・すこやか委員会からの発信をきっかけにして、各学級での生活をふりかえり、誰もが笑顔で楽しい学校生活を過ごすための取組を考え、
・アンケートの結果から、課題に対する解決案を話し合い、日常の学校生活で実践していくよう指導する。
・保健指導や保健学習に、養護教諭等が積極的に関わっていく。

下半期
・栄養職員と担任が連携し、給食に取り入れて食育を推進する。
・家庭科など教科学習の中で、意図的に給食を取り上げることで、自分の食べ方の課題を考えたり、食の大切さに気付いたりし、栄養バランスよく食べようとする実践につなげていく。

・運動委員会の取組として、縄跳びを推進する月間を設け、中休みに外で運動する機会を増やせるようにする。

・学校保健委員会に提出した、各学級の課題に対する解決案を、日常の学校生活で実践していくよう指導する。
・年間の活動を学校保健委員会と振り返り、今後の学校生活で続けていくこと、また、課題として残ったことを整理し確認する。
・保健指導や保健学習で、担任と養護教諭等が積極的に連携する。

・給食週間の取組として、すこやか委員会の児童を中心に、食事の作り手を意識して、感謝する気持ちをもてるような活動を行う。